




平成30年1月31日

京都経済情勢報告

1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに回復している」






項目	前回（29年10月判断）	今回（30年1月判断）	前回比較
総括判断	回復しつつある	緩やかに回復している	

（注）30年1月判断は、前回10月判断以降、1月に入ってからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は緩やかに回復しているほか、生産活動は回復しており、雇用情勢は着実に改善しているなど、全体としては緩やかに回復している。

【各項目の判断】

項目	前回（29年10月判断）	今回（30年1月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復している	
生産活動	回復している	回復している	
雇用情勢	着実に改善している	着実に改善している	
設備投資	29年度は前年度を上回る計画となっている	29年度は前年度を上回る計画となっている	
企業収益	29年度は増益見通しとなっている	29年度は増益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、為替変動の影響や海外情勢の動向などに留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売額は、スーパーにおいて衣料品及び飲食料品が引き続き伸び悩んでいるものの、百貨店において秋冬物衣料品などが好調となっているほか、化粧品や高額品が訪日外国人客を中心に引き続き好調であることから、全体では前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、天候の影響などにより客数が減少したものの、店内調理品等のカウンター商材が引き続き好調となっているなど、客単価が上昇しており全体では前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、新型車効果の一巡などにより普通車、小型車及び軽自動車ともに前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

家電販売額は、テレビに一服感がみられるものの、高機能エアコンやゲーム関連機器などが好調となっていることから全体では前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、新規出店効果に加え、訪日外国人客を中心に化粧品などが好調となっていることから、全体では前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、天候の影響などにより来店客数が伸び悩んだものの、防寒商品などの季節商品が好調となっていることから、全体では概ね横ばいとなっている。

観光動向 「好調に推移している」

観光動向は、ホテル稼働率が高水準で推移しているなか、外国人利用割合は前年を上回っているほか、ホテル新設などの設備投資も活発であるなど、引き続き好調に推移している。

- 最近の株高に伴う資産効果により、富裕層に高額商品が良く売れているほか、例年より低い平均気温が後押ししてくれて秋冬物衣料品が好調。また、訪日外国人の化粧品の購買意欲が旺盛であることから総じて好調を維持している。(百貨店・大企業)
- 他店との競合により来店客数は減少してきているものの、精肉関係が好調であったほか、青果が高値安定で推移したことから客単価は上昇している。また、新規出店効果もあり業績はまずまずである。(スーパー・中小企業)
- 天候の影響により来店客は一時期減少したが、店内調理品等のカウンター商材が引き続き好調であり、客単価は上昇している。(コンビニエンスストア・大企業)
- 新型車効果の一巡による落ち込みはあるものの、足下では高級車の販売開始や、納期遅れの車種が正常化してきたことから前年並みの水準となっている。(自動車販売・中堅企業)
- テレビに一時期一服感がみられたものの、12月中旬以降有機ELテレビを含め好調に推移した。また、高機能エアコンが堅調であったほか、ゲーム関連機器も良く売れており、足下では高級一眼レフカメラなどが買われ客単価は上昇傾向。(家電量販店・大企業)
- インバウンドは一時期の爆買いは見られなくなったものの、国内客と比べると購入点数も金額も多い傾向に変わりはない。観光地付近の店舗では化粧品や雑貨などが非常に好調。(ドラッグストア・中小企業)
- インバウンド需要は引き続き好調。客室稼働率も高水準で維持している。(業界団体)

■ **生産活動** 「回復している」

企業の生産活動をみると、**鉱工業生産指数**は、全国及び近畿を上回る高い水準で推移しているなか、電子部品・デバイス、輸送機械などが低下しているものの、はん用・生産用・業務用機械、電気・情報通信機械が上昇しているなど、全体としては回復している。

- スマートフォン向け部品は足下では一服感がみられているものの、データセンター向けメモリーの需要拡大を背景に半導体製造装置向け部品が好調であるほか、車載用センサー向け部品も好調。(情報通信機械・大企業)
- 自動車関連、産業機器、家電向け電子部品は、依然として好調。先行きも引き続き高水準で推移する見込み。(情報通信機械・大企業)
- 半導体関連の装置は非常に好調であり、特に海外向けは好調となっている。(生産用機械・中堅企業)
- 産業機器は、海外の有機ELパネル製造装置向けを中心に好調を維持している。(業務用機械・大企業)
- 工場用自動化機器は、人手不足や賃金上昇を背景に旺盛な需要は続く見込み。(電気機械・大企業)
- 主力の電気機器事業は、国内向けは引き続き好調を維持。企業の設備投資意欲が引き続き旺盛であるためこのところ引き合いが多い。(電気機械・大企業)

■ **雇用情勢** 「着実に改善している」

有効求人倍率は45か月連続で1倍を超え、引き続き高水準で推移しているなど、雇用情勢は着実に改善している。

- 電気工事や機器設置を行う有資格者が引き続き不足しており、人繰りの調整がつかないため、設置工事を待ってもらうこともある。(電気機械・大企業)
- 介護施設の新設や増設が続いており、医療・福祉業の中でも特に介護従事者が不足している。(官公庁)
- パートやアルバイトが採用できなくなっていることから、繁忙期に派遣会社から動員をかけるため、経費が増加している。(食料品製造販売・中小企業)
- 人材確保の観点から、働き方改革にも積極的に取り組む必要がある。離職率を抑えるために、有給休暇の取得や週末休日の導入などを行っている。(飲食サービス・大企業)
- 今後の人口減少を見据えれば、これ以上ものづくりの現場に人は増えないと考えられるため、AIの導入やロボット化による省力化の方向性を事業計画の中で明確化した。(情報通信機械・大企業)

■ **設備投資** 「29年度は前年度を上回る計画となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年10-12月期

製造業では、その他製造業、パルプ・紙などが前年度を下回っているものの、情報通信機械、化学などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る計画となっている。

非製造業では、学術研究・専門・技術サービス、小売などが前年度を下回っているものの、不動産、運輸・郵便などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る計画となっている。

■ **企業収益** 「29年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年10-12月期

製造業では、情報通信機械などが減益見込みとなっているものの、その他製造業、業務用機械などが増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

非製造業では、学術研究・専門・技術サービスなどが減益見込みとなっているものの、運輸・郵便、不動産などが増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設**

新設住宅着工戸数を後方3か月平均で見ると、前年を下回っている。

■ **公共事業**

前払金保証請負金額累計で見ると、前年を下回っている。

■ **金融**

法人企業景気予測調査(平成29年10~12月期調査)で見ると、資金繰り判断BSIは全産業で「悪化」超となっている。金融機関の融資態度判断BSIは全産業で「緩やか」超となっている。

■ **企業倒産**

件数を3か月平均で見ると、前年を下回っており、低水準で推移している。

■ **企業の景況感**

法人企業景気予測調査(平成29年10~12月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は全産業で「上昇」超となっており、規模別では、大企業、中小企業は「上昇」超、中堅企業は「上昇」と「下降」が均衡となっている。先行き(30年1~3月期)については、全産業で「下降」超に転じる見通しとなっている。

連絡・問合せ先 京都財務事務所財務課 Tel.075-752-1418